

鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発

1 代表機関・研究統括者
国立大学法人 東京大学 岡田 晋治

2 研究期間：令和3年度～令和5年度（3年間）

3 研究目的

食による認知症予防、養鶏産業拡大を目指して、卵摂取による認知機能改善効果を明らかにするとともに、その関与成分を同定する。さらに、関与成分を高含有する付加価値鶏卵の開発研究を実施する。

4 研究内容及び実施体制

① 卵の認知機能改善に関する機能性評価

全卵摂取による認知機能改善に関する機能性評価のための介入試験を実施し、卵の摂取が認知機能の改善に寄与するエビデンスを取得する。

（東京大学大学院農学生命科学研究科、キューピー株式会社、東京医科大学、神奈川県立産業技術総合研究所）

② *In vitro*における認知機能低下抑制に繋がる卵成分のスクリーニングおよびメカニズムの解明

認知機能抑制低下に繋がる卵成分のスクリーニング及びメカニズムの試験から、機能性関与成分として働く可能性が高い成分及びメカニズムを検討する。

（東京大学大学院農学生命科学研究科、キューピー株式会社）

③ 卵成分摂取による認知機能改善効果の検証のための介入試験

効果が期待される成分を用いた介入試験を実施し、同定された成分が、認知機能の改善に寄与するという直接的なエビデンスを取得する。

（東京大学大学院農学生命科学研究科、キューピー株式会社、東京医科大学、神奈川県立産業技術総合研究所）

④ 鶏種や飼養条件が卵中機能性物質に及ぼす影響

鶏種や飼養条件等が卵中の機能性物質含量に及ぼす影響を検討し、これを最大化する条件を明らかにする。

（農研機構（畜産研究部門）、キューピー株式会社、東京医科大学）

5 最終目標

ヒト試験で、卵の認知機能改善効果を世界で初めて調査・確認する。卵に含まれる認知機能改善効果の成分を同定し、ヒト試験で効果を確認する。卵中に含まれる機能性成分の鶏種や飼育条件による違いを見いだす。

6 期待される効果・貢献

卵の認知機能改善効果を啓蒙することで卵の需要を拡大し、鶏卵市場も拡大させる。認知機能改善の関与成分を特定し、機能性表示食品としての新市場を創出する。関与成分を高含有する付加価値卵を開発し新市場を創出する。

【連絡先 国立大学法人 東京大学 03-5841-1127】

